

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護基礎教育プログラムの開発				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理
	研究分担者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加納 江理
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	膽畑 敦子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	榭 みのり
		所属・職名	訪問看護ステーションあみ・所長	氏名	稲葉 恵美
		所属・職名	訪問看護ステーション清水・所長	氏名	漆畑 理津子
		所属・職名	訪問看護ステーションほたるしずおか・所長	氏名	大塚 りか
		所属・職名	訪問看護ステーションいはら・所長	氏名	橋本 実穂
		所属・職名	曲金訪問看護ステーション・所長	氏名	丸山 久美子
		所属・職名	訪問看護ステーション駿河・所長	氏名	望月 多恵子
		所属・職名	訪問看護ステーションれん・所長	氏名	横田 早苗
		所属・職名	訪問看護ステーションみかど台・所長	氏名	山田 芳枝
		所属・職名	静岡県看護協会・常務理事	氏名	松井 順子
所属・職名	静岡県訪問看護ステーション協議会	氏名	長谷川 厚子		

講演題目	訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護基礎教育プログラムの開発
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】 看護基礎教育の課題解決の方法として、「看護実践に関する思考」を培う臨床判断の統合モデル（Tanner, 2006）が開発された。臨床判断能力を育成する教育方法として、シミュレーション教育や学生が経験を省察する機会となるデブリーフィング、理論と実践を結び付けるコンセプトを基盤とした学習活動（CBLs）が提唱されている。ラサター臨床判断ルーブリック（Lasater Clinical Judgement Rubric: 以下、LCJR）は〔初歩的〕〔発展途上〕〔達成〕〔模範的〕のレベルを可視化し、学生の臨床判断能力育成を支援するシミュレーション教育の評価ツールとして開発され有用性・有効性が検証されている（細田ほか, 2018）。本研究では、地域包括ケアシステムの進展やAIの普及に伴う在宅療養者・家族の療養環境の変化に対応した訪問看護師の思考と臨床判断を培う看護基礎教育プログラムの開発を行うことを目的とした。</p> <p>【成果】 在宅看護学実習を履修する看護学部3年生106名18グループを対象とした臨床判断の統合モデル（Tanner, 2006）を訪問看護場面に再構成したアクティブラーニングプログラムを実施した。本プログラムの有用性を高めるため、訪問看護事業所及び静岡県看護協会等と連携を図り、事例教材の開発、実施、学習者へのパフォーマンス評価とフィードバックの方法の検証-日本語版LCJRの活用-に取り組んだ。本年度は、実習指導者等を対象として、臨床判断ルーブリックを開発されたラサター博士のオンライン講義「学生と新人看護師の臨床判断を育成するツール」を2022年8月27日（土）13:30～16:00開催した（参加者38名）。受講者を対象としたアンケート結果では、「たいへんよかった」23名（72.3%）といった肯定的評価を得ることができた。臨床判断能力育成の教育手法について、実習指導者と教員間の認識の共有を行うことができたと考える。</p> <p>【今後の展望】 看護基礎教育のみならず、新人を対象とした看護継続教育プログラムにおいても、学習者へのパフォーマンス評価とフィードバックの方法の検討が求められている。</p>